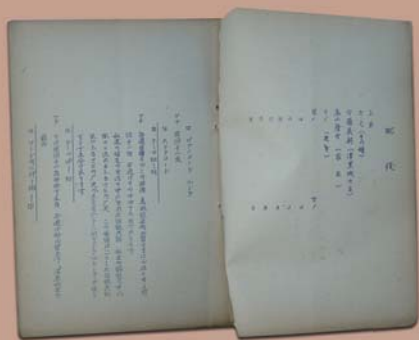


戦後鳥取で市民が作り 市民が聴いたラジオドラマ

私たちは縁あって、昭和20年代にNHK鳥取放送局の電波に乗ったラジオドラマの脚本の一部をお借りすることが出来ました。そこで平成28年から、脚本の執筆に携わった方々や演じた方々、また当時の社会状況について調査するとともに、ラジオドラマの再演・再現にも取り組んできました。

このイベントでは、昭和27年に「因伯千一夜」シリーズの一作として放送された「津黒城主の最后」を、学生がラジオドラマとして再現したものをお聴き頂くとともに、松本健一さん(ギャラリー栄光舎)と今本明子さん(朗読ひまわりの会)に、同シリーズの「天女」を朗読劇として再演して頂きます。

また、学生と教員が、これらのラジオドラマについて調査・研究した成果を発表します。お借りしている脚本は、脚本集として今年度中に出版予定です。当日はそのゲラ刷りも展示します。



「津黒城主の最后」脚本



来見野橋の現地調査



「津黒城主の最后」録音の様子

第1部

学生による「津黒城主の最后」の再演と調査発表

ラジオドラマ「津黒城主の最后」は、戦国時代に実在した津黒城主安藤義躬の、悲劇の伝承をモチーフにしたドラマです。私たち自身の手で、セリフの録音から、効果音やBGMを加えて完成させるまで取り組んだ作品をお聴き下さい。

またこのドラマを含む多くの脚本を執筆した砂川哲夫さんのことや、このドラマにまつわる歴史や地理について調査したところを発表します。

第2部

「天女」の再演と、教員による研究発表

松本健一さんと今本明子さんに再演して頂く「天女」は、倉吉の打吹天女の伝説をモチーフにしていますが、ラジオドラマでは男女のドラマとして大胆に脚色されています。松本さんと今本さんがそれをどのように再現されるのか、楽しみにしてお聴き下さい。

また3名の教員が、日本近代文学・日本語学・メディア表現の立場から、これらのラジオドラマについて考察した内容を発表します。

ラジオドラマ再発見 かつて鳥取でつくられ、鳥取で聴かれたエンターテインメント 魅力ある音の世界がいま、甦る

2018年12月9日(日) 会場: enetopia plaza (旧ショールーム サルーテ)

開演:14:00(終了予定 16:30) | 入場料:無料 | 定員:100名(予約不要) | お問い合わせ先:090-9628-4370(岡村)

主催:鳥取大学地域学部 | 鳥取大学地域価値創造研究教育推進プログラム 地域連携事業 | 共催:enetopia

enetopia plaza

営業時間 9:00~17:00(休館日:月曜・GW・盆・年末年始)

鳥取市片原5丁目503 ☎0570-04-8833 www.salute-withgas.jp

アクセス: ①鳥取駅から車で5分(駐車場有)、徒歩で20分 ②鳥取市100円循環バスくる梨赤コース「片原五丁目」下車、徒歩1分

